

益純業務業質実

東濃信金が増益

3月期 債券関連益増える

東濃信用金庫(多治見市本町、市原好二理事長)が17日発表した2015年3月期決算は、国債等債券関連益の増加などにより、本業の収益力を示す実質業務純益は前期比14・4%増の36億8000万円と3期ぶりの増益となった。期末預金残高は初めて1兆円を突破した。

純利益は与信関連費の増加、株式関連益の減少などで27億4700万円(前期比0・5%減)と3期ぶりの減益。経常利益も38億9900万円(3・5%減)となった。

期末預金残高は、前期より430億円増の1兆351億円(4・3%増)と1兆円を超過、個人、法人、公金とも増加した。期末貸出金残高は住宅ローン、公金は減ったが、企業向けが増え、5180億円(3・3%増)となった。

自己資本比率は前期比0・63_{ポイント}低下の16・66%で、高水準を維持している。

16年3月期は与信関連費用などの増加を見込み、減益を予想する。